

1. 科目名 (単位数)	病弱教育Ⅱ (2 単位)		SNMP3450 SCMP3450
2. 授業担当教員	加藤 洋子	3. 科目番号	SBMP3450 SSMP3450 SSMP3350
4. 授業形態	病弱教育Ⅰを踏まえた講義・演習・模擬授業	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	病弱教育Ⅰおよび病弱者の心理・生理・病理の授業を履修してから本授業を受けることが望ましい		
7. 講義概要	近年、小児医療においては長期入院を避け、入退院を繰り返しながらもできるだけ家庭や地域で過ごす治療形態がとられるようになってきている。そのため、病弱教育には多様な疾病の特性理解に加え、入退院や治療形態に合わせた柔軟な対応が求められている、この現状を踏まえ、本科目では、病弱者の特性に合わせた個別の教育支援計画、個別の指導計画、学習指導案の作成を通して、学習空白への個に応じた配慮や教材教具の工夫、学習指導案の作成、教育内容の臨機応変な調節を含む初歩的な実践力を身につける。		
8. 学習目標	【期待される効果】以下に関して「病弱教育Ⅰ」で学んだ基礎知識を応用し、初歩的な実践ができる。 ①生涯を見通し、キャリアオーバーを見据えた教育内容の精選。 ②多様な実態を踏まえた個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成。 ③病弱教育の教育課程を踏まえ、病気の状態への配慮を含んだ学習指導案の作成。 ④学習の空白や活動の制限を補う教材教具の工夫。 ⑤外出の制限を補うICT教材の工夫。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	5人程度のグループを作り、「準ずる教育課程」「自立活動を主とした教育課程」について模擬授業を行う。 ・児童生徒の実態を決め、役割分担をして、教材教具を工夫し、指導案を提出してください。 ・指導案は、展開部分は共通でも、「指導観(題材観、児童生徒観、教材観)」の部分を各自考えて、全員が提出してください。 ②教育指導計画・教育支援計画の作成・教材づくりを行い、実践的に学び演習する。 ③ICTによる障害児童や保護者との面談・交流・模擬授業を体験し、特別支援教育の実践力を身につける。 ④グループで病弱教育が必要な児童の入院時・通院時・通学時・終末期における病児の病態に合わせた教育環境の整備や合理的配慮、児童の教育をとおした生きる力に繋がる教育実践についてまとめ発表すること ⑤文部科学省「生きる力」の教育「病弱児教育」の事例から学び、要点をまとめ指導案に示していく。 本授業は、アクティブラーニング方式でグループワークにより事前事後学習、発表を行い「学ぶ」「気づく」の主体的学習姿勢・グループでの役割認識を重視する。途中で専門用語に関する小テストを行う。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】病気の子どもの教育入門 改訂増補版 全国病弱教育研究会 クリエイツかもがわ ①文部科学省『教育支援資料』 Web サイト http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250.htm ②文部科学省『特別支援学校教育要領 学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部) (平成 30 年 3 月)』開隆堂、2018。 ③文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部) (平成 30 年 3 月)』開隆堂、2018。 ④文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則編(幼稚園・小学部・中学部) (平成 30 年 3 月)』開隆堂、2018。 (①～④は、「病弱教育Ⅰ」と共通する。教科書は、病弱教育Ⅰで使用した教科書を使用する。 尚、①～④は、WEB からダウンロードすることが可能です。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 病気の状態をふまえた授業実践に興味関心をもち、教材や指導案の準備に真剣に取り組んだか。 医療や福祉の関係者との連携の上に学校の取組みが成り立つことが理解できたか。 ○評定の方法 実際に教壇に立ったときに、教師としての計画性と柔軟性をもって実践できるかを念頭において評価する。 1. 模擬授業の準備(教材作り、指導案作成など)、実践 総合点の30% 2. その他の授業態度 総合点の20% 3. 期末試験 総合点の50% *なお、本学規定の「3/4以上の出席」が単位修得の条件であることも判断規準となる。		
12. 受講生へのメッセージ	①教育実習の研究授業に向けた準備と考え、指導案及び教材教具は必ず作成していただきます。実際に教師になったつもりでやりましょう。 ②病気の子どもの背景には、家庭や学校、病院など子どもを取り巻く社会の人間関係があります。治療はできなくても、これらの環境に働きかけて、子ども自身の生きる力を引き出すことが教師の使命です。このことをふまえて、日頃から感性や資質を磨きましょう。		
13. オフィスアワー	最初の授業時に提示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション／病虚弱児とは教育の現状	事前学習	病弱教育Ⅰで学習した内容を振り返っておく。病弱教育Ⅰの教科書・資料の熟読。
		事後学習	学校教育法施行令第22条の3での病弱者の定義を暗記しておく。 病弱教育Ⅰの教科書・資料の熟読。
第2回	病弱教育の場、担当する教師の役割	事前学習	病弱教育の場について、教科書の p.14 の図を見て確認しておく。 病弱教育Ⅰの教科書・資料の熟読。

		事後学習	通常学級の教師及び病弱特別支援学校の教師の立場で、役割について整理しておく。 病弱教育Ⅱの教科書・資料の熟読。
第3回	病虚弱児の教科指導と授業作り	事前学習	学習指導要領解説（総則等編）で、病弱児の教科指導の配慮事項を調べておく。
		事後学習	教科書の各指導例で「配慮事項」の部分に線を引いておく。 病弱教育Ⅱの教科書・資料の熟読。
第4回	指導案及び個別の指導計画の作成	事前学習	教科書にある「個別の指導計画」例を読んでおく。 病弱教育Ⅱの教科書・資料の熟読。
		事後学習	指導案がどのような組み立てになっているか確認しておく。
第5回	教材・教具についての基本的概念	事前学習	教科書にある教材教具の内容とねらいについて、調べておく。
		事後学習	教材教具の意義についてまとめておく。
第6回	重症心身障害児の教育	事前学習	「重症心身障害児」とは何か、どのような場で暮らしているのか調べておく。
		事後学習	「重症心身障害児」の学習内容について確認しておく。
第7回	不登校児（心因性障害や発達障害による）への対応	事前学習	「不登校」の定義とは何か調べておく。
		事後学習	学校に行けなくなる要因について、まとめておく。
第8回	病虚弱児の教科指導への配慮事項	事前学習	第1回～7回までの学習内容を整理しておく。
		事後学習	教科書 各指導事例の「指導上の配慮事項」を読んで、模擬授業の指導案に生かす。
第9回	教材教具を工夫した授業の展開（準ずる課程）	事前学習	「準ずる課程」の意味を復習し、適切な教材教具をwebなどで調べておく。
		事後学習	指導案作成に必要な事項を振り返っておく。
第10回	教材教具を工夫した授業の展開（自立活動を主とした課程）	事前学習	「自立活動を主とした課程」の意味を復習し、適切な教材教具をwebなどで調べておく。
		事後学習	指導案作成に必要な事項を振り返っておく。
第11回	演習 （指導案作成、教材作り、模擬授業）	事前学習	対象学年と授業科目を選び、指導案、教材、教材説明書を用意する。
		事後学習	観察メモを読んで、授業の改善点を記録しておく。
第12回	演習 （指導案作成、教材作り、模擬授業）	事前学習	対象学年と授業科目を選び、指導案、教材、教材説明書を用意する
		事後学習	授業のテーマを選び、指導案、教材を用意する。
第13回	演習 （指導案作成、教材作り、模擬授業）	事前学習	対象学年と授業科目を選び、指導案、教材を用意する。
		事後学習	観察メモを読んで、授業の改善点を記録しておく。
第14回	演習 （指導案作成、教材作り、模擬授業）	事前学習	対象学年と授業科目を選び、指導案、教材を用意する。
		事後学習	観察メモを読んで、授業の改善点を記録しておく。
第15回	演習 （指導案作成、教材作り、模擬授業）	事前学習	第1回～15回までの学習内容を整理しておく。
		事後学習	答えられなかった部分、気づかなかった部分を確認しておく。
期末試験			